大正九年六月一日發行　大正九年五月二十六日印刷納本　（每月一回一日發行）　明治三十七年五月七日第三種郵便物認可

女子青年界

第十七巻　六月號

目次

ライオン歯磨

と

口中の黴菌

▼ライオン歯磨は、口腔衛生學上より、歯科醫學上より、藥物學上より觀て、悉く合理的のものばかりを精選致してありますから、完全なる化學的作用と完全なる理學的作用と、完全なる藥效的作用とを持つてをります。

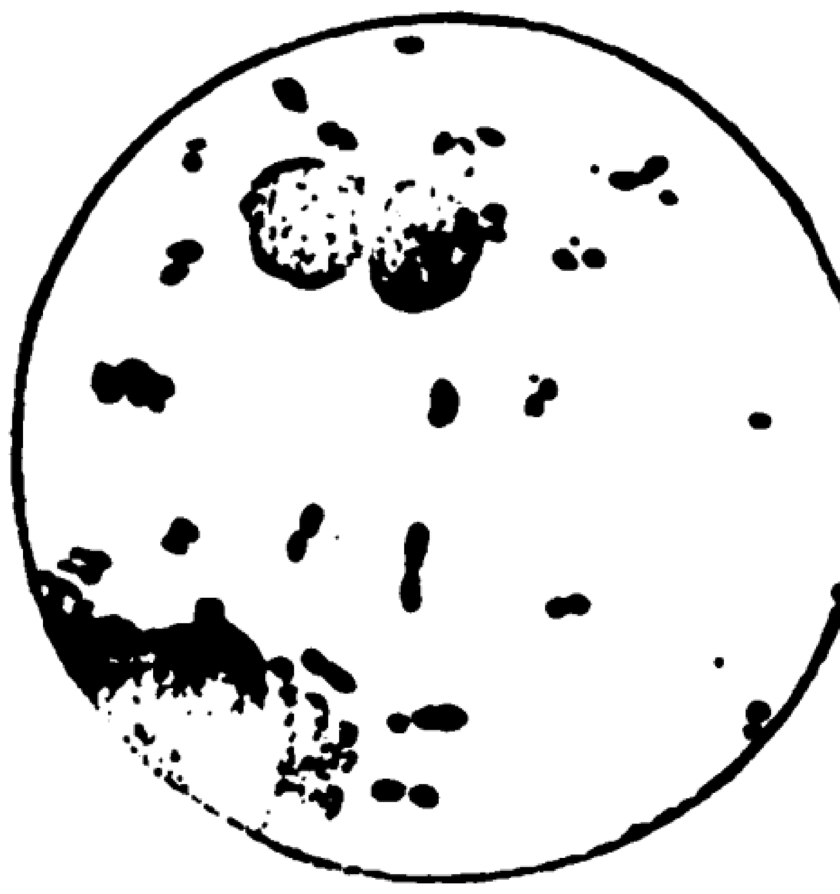
▼完全なる化學的作用とは、齲歯の原因たる乳酸醱酵に對して菌体の破壞作用を營み、齲歯を豫防するのであります。完全なる理學的作用とは、その微細均等たる粉末が、天然の歯牙は勿論、歯牙の補充に使用せる金屬に對しても、磨滅の憂なく随つて、歯牙を損傷せずして能く歯垢其他歯間の不潔物を完全に除去し、汚物の醱酵より來る口臭を豫防する事であります。

▼完全なる藥效的作用とは、口腔常在菌（口中にある諸種の黴菌の綜合的名稱）の繁殖を防ぎ、若しくは死滅せしめ、朝夕の使用によつて齲蝕の進歩及び歯痛を豫防し、且歯齦炎の如き口腔内に起る炎症に對し特效を有する事であります。

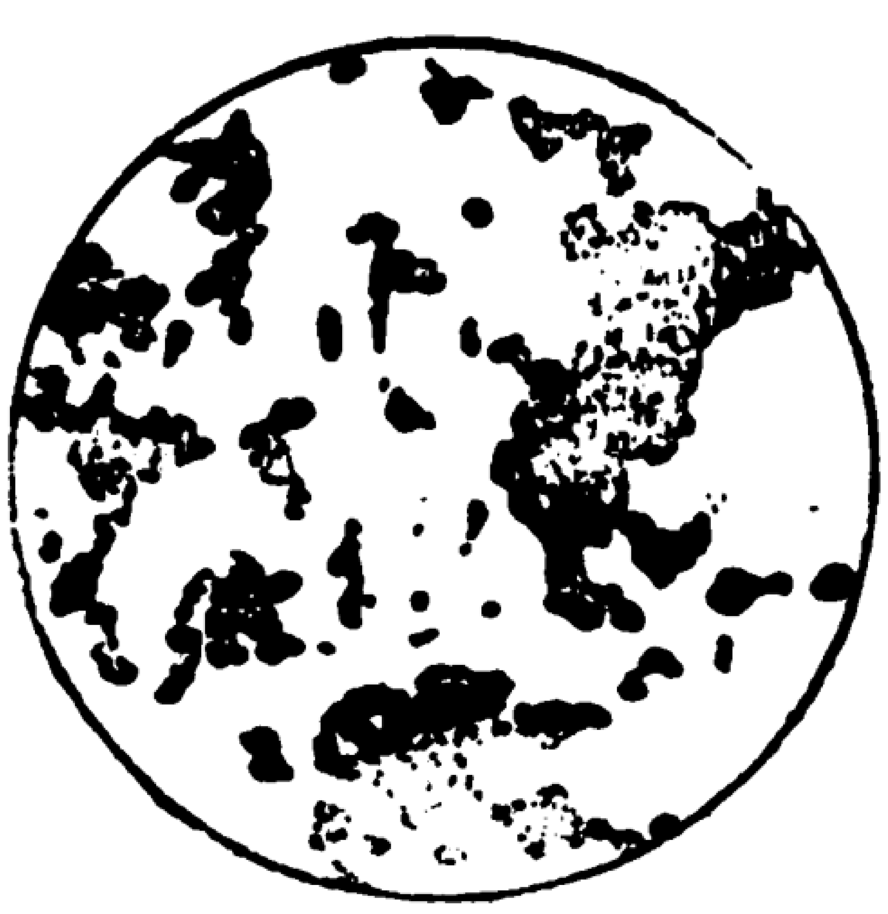
▼殊に、口中には下に示す如く、諸種の病原菌が發生して、それが歯根から淋巴腺に入り込むか、或は咽喉から嚥下されるかして、結核病・リユウマチス・神經痛・糖尿病等の原因となるのです。それ故に、ライオン歯磨を朝夕愛用して、齲蝕を豫防し、歯垢や歯石を豫防する事は、身体保健上、何よりも大切であります。



口腔常在菌



肺炎双球菌



化膿性葡萄狀球菌

第十七卷第六號

女子青年界目次

大正九年六月號

第十五回

大正九年七月二十二日(木)夕より

同　三十日(金)朝まで

横濱市山手町フェリス女學校に於て

女子青年會 夏期修養會

申込所　日本基督教女子青年會本部

東京牛込區田町三丁目十二番地

電話番町四五六三番

申込期日　七月十日迄

費用　會費金壹圓（一日貳拾錢 四日以上壹圓）

滯在費金八圓（一日壹圓）

DAISEIYA HOTEL

Honcho 6 chome, Yokohama Japan,

Phone. 953,2813. Honkyoku

御歸朝並に御渡航上に就ては萬事丁寧親切に御取扱申上候、尚御歸朝の際は 無線電信にて 御通知被下候はゞ 御出迎可仕候

歐米各國汽船乘客貨物取扱所

廣島縣海外協會指定旅館

熊本縣海外協會指定旅館

∧上 大勢屋旅館

横濱市本町六丁目（櫻木驛前）

電話本局 長 九五三 二八一三

弊館は最新式 四層建築にして 各室電話の設備を有し 歐米視察御旅客並に御携帶品、 貨物等の取扱には最も高評を博し居り候

FURS & MILLINERY

D. KOMEYA,

Prop. C. YAMAOKA

WHOLESALE and RETAIL

A Largest collection of Furs, Coats, Stoles, Muffs, Slippers, Brocade Linings & Feathers. Water Color Pictures.

FUR DEPT.
No. 3 & 4, Benten-dori, Itchome, Yokohama

PICTURE DEPT.
No. 14, Bentendori, Itchome, Yokohama

SUMMER BRANCH
Karuizawa, Shinshu

貴婦人令孃用

毛皮コート 襟巻 マフ スリッパー 羽毛

絹裏地 水彩畫類 其他毛皮製品種々

何れも最新流行形いろ〱取揃へてありますから多少にかゝわらず御用命の程御願上げます、又た御贈答品としては最も好適品であります、御注文も御好みに依り入念調製いたします。



横濱市辨天通一丁目三、四番地
コメヤ號 山岡商店 電話長三三七〇

東京市京橋區南金六町一番地
コメヤ號 山岡商店 電話銀座一〇二五

夏期出張所 信州輕井澤

一、銀器類

一、貴金屬寶石細工品一切

外國人交際用贈答用品充實完備
內地流行界より一歩づゝ先走つた品物のみ



○意匠、技巧優良
○價格低廉
○信用安全
○取引敏速

永年外國人向にて苦心の點品物に現はれて居る筈です態々横濱迄御用命の甲斐あるとと確信致します

横濱市辨天通一丁目拾貳番地

辨天商會

MANZO DRY GOODS STORE

The Store for Ladies and Children.

Children's Outfits made to order.

TEL. NO. 382 21, Sakaicho Itchome, Yokohama.

歐米雜貨直輸入卸小賣
婦人及小供用品專賣
幷に小供洋服裁縫

マンゾー洋物店

横濱市境町一丁目廿一番地
電話三百八十二番

事務用品一式
歐米文房具卸小賣
東洋萬年毛筆發賣元
リパテー萬年筆發賣元
各種文房具製造

東京文具株式會社

東京市神田區神保町通リ
電話神田三四七六番
振替東京七一五〇番

女子青年界

第十七巻

第六號

イスラエルよ、今汝の神エホバの汝に要め給ふことは何ぞや惟是のみ、則ち汝がその神エホバを畏れその一切の道に歩み之を愛し心を盡し精神をつくして汝の神エホバに事へ、又我が今日汝らに命ずるエホバの誡命と法度とを守りて身に福祉を得ることのみ。

申命記十章十一、十二節

エホバの汝に要めたまふ事は唯正義を行ひ憐憫を愛し謙遜りて汝の神とともに歩む事ならずや。

米迦書六章八節

唯だ一つのみ

札幌日本基督教會牧師　小野村林藏

一

北の國にも春は來た。アカシヤやエルムの梢に緑が芽ぐんで、我が札幌は今や新しい生命の色調に包まれてゐる。背後に藻岩の峰を負ひ、前に石狩の平野を眺めて、北海十州の文化の源泉を以て任じ、開拓以降五十年の春秋を、靜に辿つて來たエルムの都は、今日も昨日のやうに靜かである。机に凭れて物を思ふてゐると、時計臺の時を打つ鐘の音が聞えて來る。北海道大學の前身であつた札幌農學校の敷地跡に建てられた、通稱を時計臺と呼ばれる公會堂、兼圖書館の屋上にある塔は、さながら北海道の文化を象徴するがやうに、高く市街の上に聳えて、時の流轉を報じてゐる。かのウヰリアム・クラークが農學校初代の學生に聖書の講義を試みたのは、今は建物こそ變つてゐるが、其處に於てゞあつた。彼が學生を薫陶した日子は僅かに八ケ月に過ぎなんだ。そして彼は〝Boys be ambitious！〟の一語を殘して飄然として太平洋の彼方に歸り去つた。併し彼の撒いた種子はいみじくも根を下した。それから生じた信仰の樹は、佐藤總長を初めとして、北海道大學の諸教授間に、今もなほ繁茂しつゝある。日本の基督教界に彗星のやうに輝いてゐる內村鑑三氏や、國際聯盟常設機關に參與して、世界の平和の爲めに努力しつゝある新渡戸博士等も、また此の群の生みの子であつた。

傳へ聞く、クラーク博士は、此の世を去らうとするに臨み、枕邊に集ふた友人等に對して、「私は永い生涯に色々の事をすることが出來た。戰爭にも功を樹てた。學術上にも貢獻した。併し今、此の世に終を告げんとする時に、希望に滿ちてゐることは、日本に居た八ケ月の間に、學生達に聖書を敎へた事である。此の一事が、今の自分の大なる慰である」と語つたと。げに彼が生涯の最大の意義は、日本に於ける八ケ月間の聖書講義にあつた。彼が農學者として、或は軍人として、世に功獻した所のものは遂に忘れられる時が來るであらう。併し彼がナザレのイエスの名の爲めにした、其の小さいバイブルクラスは、日本基督敎史に特筆せられて、永遠の人道に不朽の光輝を留めるであらう。

二

ウヰリアム・クラークを追懷する私の心は、あのづからバプテスマのヨハネを聯想する。第四福音書は時人の彼に對する批評を傳へて、「多くの人みもとに來りて「ヨハネは何の徵をも行はざりしかど、この人に就きてヨハネの言ひし事は、ことごとく眞なりき」と言ふ」(十章四十一)と記してゐる。

「ヨハネは何の徵をも行はざりし」。之れ時人がヨルダン河畔の野の人に、棺を蓋ふて後に下した評言であつた。洗禮者としての彼の名は、一時天下を聳動した。併しそれも束の間であつた。あたら三十二歲の男盛りをマケラス城裡の露と消えた其の最後は淋しかつた。しかも世を去つて後の今、彼の生涯を追懷しては、時人は更に一層の淋しさを感ぜざるを得なかつた。彼の火のやうな熱情も、劍のやうな雄辯も、英魂一度去つての後は、遂に夢まぼろしとなつたでは無いか。然りヨハネは何の徵をも行はなんだ。其の生涯の大方は、荒野の寂寞に埋もれて、人間の世界と交渉する所なかつた上、彼が晩年の短かい傳道の生涯に於ても、時人に殘した印象は、身に駱駝の衣毛をまとひ、蝗と野蜜とを喰ふ一偉相の人

物といふだけであつた。彼によつて傳へられた、何等永續的の事實も無ければ、また思想もなかつたのである。彼はみづから容したやうに、畢竟、荒野に呼はる聲」に過ぎなんだ。

三

再び言ふ、ヨハネは何の徴をも行はなんだ。其の生涯は誠に無爲なものであつた。しかも其の無爲なりし生涯に於て、彼の爲し得た唯だ一つの事があつた。それは彼がナザレのイエスに於て萬世の救主を發見して、之れを世に紹介したことであつた。時人は敏くもそれを認めて、「ヨハネは何の徴をも行はざりしかど、この人に就きてヨハネの言ひし事はことごとく眞なりき」と言つた。

彼はナザレの木匠イエスに於て、世に來るべき救主を認めた。そしてイエスを指差して、「視よ、これぞ世の罪を除く神の羔羊。われ曾て「わが後に來る人あり、我にまされり、我より前にありし故なり」と云ひしは、此の人なり。」と群衆に證言した。あと唯だ此の一事、是れが彼の全生涯に於て爲し得た業のすべてゞあつた。さもあれ彼は能くも此の一事を選み取つた。寶藏の容積は大きくても、それを開く鍵は小さい。しかも其の小さい鍵こそは寶藏に入る唯一の手がゝりである。彼は敢て何物をも手に執らうと爲なかつた。しかし彼が手を動かした時は、一大寶藏の鍵を握んだ。果然、彼は此の一事によつて、永遠の人道に於ける大恩人の一人となつた。

四

何んといふあわたゞしい世の中であらう。自働車は飛び、電車は走り、電話のベルは鳴る。道行く人は及び腰に、心も空に奔走する。二本より無い手を八本にも使つて、運命の神を執へやうと、不安そうな眼を光らす。綠草を踏んで詩を思ふ心は消えはてゝ、デパートメントストアのエレベーターを踏んで黄金を思ふ。學者も、政治家も、商人も、男も女も

唯だ多くを得、多くを爲さんことを是れ願ふて、選擇の價値を知らざるものゝやうである。「美術家の伎倆は、彼が何を省略するかによつて知ることが出來る」とシルレルは言つた。單に多くを取り入れる事のみが人生の意義を豐富にするものではない。何を省略すべきかてふ事こそ、價値ある生涯の第一要件である。「無くてならぬものは多からず、唯だ一つのみ、マリヤは善きかたを選みたり」之れベタニヤの姉妹の家に、姉マルタを諭し給ふたイエスの訓言ではないか。我等は果して何を採り、何を省略すべきであらうか。富か、名譽か、はたイエスか。

（一九二〇、五、七）

マルタよ、マルタよ、汝さまざまの事により思ひ煩ひて心勞す。されど無くてならぬものは多からず、唯一つのみ、マリアは善きかたを選びたり。此は彼より奪ふべからざるものなり。ルカ傳十章四十二節

リテルトン夫人の如きは活動的神秘主義の好模範である。夫人は驚く可き勢力主義者であつて諸方面に活動した人である。憐むべき墮落婦人の爲、或は婦人勞働問題、婦人參政權獲得運動等に全力を傾注された。而してかゝる活動と事業の奥にはいつも見えざる世界が開展し、此秘密の世界に退き、平安の泉を汲む事が夫人の活動の原動力であつた。夫人が其靈魂の最も深き所に慰籍を得、神と交りつゝ、社會に於て、家庭に於て事業に熱中する有樣は見るものをして愉快に感ぜしめた。

「キリスト教の新建設」より

ピリピ書講解（二）

佐波亘

□この講解は十回で終りたいので、字を拾ひ句を摘んで一々講解するわけにはゆきませぬ。それから聖書は改正の邦語譯に從ひます。

□さて今回は第一章の三から十一迄を講解します。聖書の本文に『われ汝らを憶ふごとに、我が神に感謝し、常に汝ら衆のために、願のつどつど喜びて願をなす。是なんぢら初の日より今に至るまで福音を弘むることに與るが故なり。我は汝らの衷に善き業を始め給ひし者の、キリスト・イエスの日まで之を全うし給ふべきことを確信す。わが斯くも汝ら衆を思ふは當然の事なり。我が縲絏にある時にも、福音を辯明して之を堅うする時にも、汝らは皆われと共に恩惠に與るによりて、我が心にあればなり。我いかにキリスト・イエスの心をもて汝ら衆を戀ひ慕ふか、その證をなし給ふ者は神なり。我は祈る。汝らの愛、知識ともろもろの悟とによりて彌が上にも增加り、善惡を辨へ知り、キリストの日に至るまで潔よくして躓くことなく、イエス・キリストによる義の果を充して、神の榮光と譽とを顯さん事を』とある部分です。

□歡喜はピリピ書の最も高調するところです。人生に於ける歡喜には種類がありますが、こゝにはパウロの「祈禱に於ける歡喜」が示されてあるのです。祈禱に於ける歡喜！　人生に於ける祝福の中何物か克く此に匹敵するものがありませう。實に祈禱に於ける歡喜は神が人類に經驗せしめらるゝ最大最高の恩賜であると言ても宜いでせう。曾てピリピ教會の人々はパウロによつて此事實を目前に經驗させられたので、使徒行傳に「獄守この命令をうけて二人を奥の獄に入れ、桎にてその足を締め置きたり。夜半ごろパウロとシラスと祈りて神を讃美するを囚人ら

聞きゐたるに……」（同十六ノ二十四——）とあるのがそれです。祈禱に於ける歡喜は獄裡をも天國にします。

□こゝに「憶ふ」とありますが、これは過去の一事件のみを憶ふのではなく、凡の事件を包括してパウロがピリピ敎會全體の上を憶ふのです。彼のこと此のことゝ探し出してぽつ〳〵憶ふのではありません。勿論、一つ一つ取出して言へば、彼の記憶には甚だ不愉快な事件がないではなかつた。例へば二人の婦人の軋轢やおのが腹を神とする輩のこと（ピリピ書三ノ十九及び四ノ二）がそれだ。然しながら現在遠方からその全體を眺めると、彼の目に影ずるものはたゞ當時の聖徒たちの名と面とばかりで、その他のものは悉く消えて印象なきやうであつたのです。祈禱に於て過去を憶ふ時、人は皆パウロの此の場合のやうな經驗を與へられます。そして斯る經驗はどれ位人を鼓舞激勵することでせうか。多くの失望は祈禱なしに過去を追想するからです。勇氣が挫けるのもそれです。

□それから「感謝」とありますが、過去の記憶は自ら感謝になるものです。抑も信仰生活に於て最も大切なことは感謝であつて、常にその感謝あらしむるにはどうしても記憶を必要とします。然もその記憶は祈禱に於てゞなければなりません。主イエスも「十人みな潔められしならずや、九人は何處に在るかこの（一人）の他國人のほかは……」（ルカ傳十七ノ十一）と仰せられたことがありますが、祈禱に於て憶ふことなくば人の心に深い——斷えざる——感謝は湧きません。そして感謝のない生活は希望もなく力もなき眞に淋しい生活でありまして、あれも一時、これも一時といつたやうな生活をするより外はありません。どうか"Thank you"の多い生活、然もそれが祈禱に於て行はるゝやうにしたいものである。それ故祈禱の内容を點檢して感謝がどれだけあるかは、お互に深く考へねばなりますまい。

□「喜びて願をなす」。祈禱を喜ぶ生活はやがて人生を喜びて暮すことになる。かゝる人は高尚な意味に於ける樂天家になり得らるゝ。人窮すれば天に訴ふ

といつたやうな、或は又苦しい時の神頼みといつたやうな生活には樂天的な天地は少しもあり得ない。

□「福音を弘むることに與る」パウロのピリピ教會に對する感謝の一つは、この教會が彼の傳道事業に力を合せ、彼と共にその勞を負ひ、斷えず彼の同勞者であつたからです。即ち「ピリピ人よ、汝らも知る、わが汝らに福音を傳ふる始、マケドニヤを離れ去るとき授受して我が事に與りしは、汝らのみにして他の教會には無かりき」(ピリピ書四ノ十五)とあるやうにピリピ教會は創立の始めより傳道的な教會であつたのです。斯の如く眞に理想的な教會であつたので、傳道の精神に燃えて居たパウロには實に此上なき感謝でしたらう、教會が自己の事業のみに沒頭して、さらに大なる若くは他の傳道事業に共鳴しない時、それは無力なものになつてしまいます。世界大戰はこの事實を證明しました。戰爭の始 教會は鼎の輕重を問はれましたが、これには教會は一言も辯解の辭がありませんでした。偶々三百代言的な辯明も見えましたが、勿論、顧みるには足りませんでした。然るに大戰も終結となるや教會は上よりの暗示を受けました、それは世界大戰は一面神が教會を審判されたのであると考へて、教會はこゝに大なる回心をなすと共にそこにその無力の原因を發見したのです。その一つの運動が彼の Interchurch movement です世界的、國際的教會の運動がそれです。實に此は教會の合同問題以上に世界的の大傳道です。世界の大勢は奴隷より自主へ、自主より聯盟へと、社會萬般の事が進んで行きます。他を顧みるの暇がないなど言つて居ると獨りぼつちに取殘されます。教會もさうです。先頃はペンテコステを迎へましたが、使徒時代の教會の空氣はどうでしたらうか(使徒行傳二ノ四十二)一個の教會に於ても此精神——同勞——は大なる力です。また獨り教會のみに限りません。

□「確信」とある。パウロの確信はいつも神に信賴するより發して居る。彼は先づ神を信賴する。それから確信を得るに至つて居るのです。これが順序で

す。信仰生活はこれに外なりません。即ち「汝らの裏に善き業を始め給ひし者の、キリスト・イエスの日まで之を全うし給ふべきことを確信す」とあります。これは神がキリスト再臨の日の實現する時まで創立の當初より今日に至るまでの如く、ピリピの教會を成長發達せしめて、必ず此を完全なものにせらるゝであらうとの確信を述べたものである。何事につけても彼はこのやうな期待を以ていつも力ある生活をすることが出來たのです。序ながら基督教の靈魂不滅論もこのやうな點から論ずるのです。

□「戀ひ慕ふ」とあるばかりではありません。こゝにはその上に「キリスト・イエスの心をもて」と附け加へられてあります。神秘的にイエスの心と共鳴するやうになつたその心をもつてゞあります。己が心のたけを盡してゞはありません。人の心の深さは知れたものです。こゝはイエスの心をもつてゞす。パウロは智力の秀でた偉大なる人物でありましたが、同時にまた極めて心情の優しい美德を有して居ました。然もその心情たるやキリスト・イエスの愛に根ざして聖化されたものであります。

□「汝らの愛、知識ともろもろの悟とによりて彌が上にも增加り」とあります。愛は盲目になり易い。愛は知識の光に浴して始めて最上なものに成るのです。かゝる愛には恐怖がありません。「愛には懼なし、全き愛は懼を除く」(ヨハネ第一書四ノ十八)不完全なる盲目の愛は屢々疑を生ずることがあります。疑は愛を殺します。迷信の恐ろしい點はこゝです。徒らに愛國心を養成してもそれは却て危險です。何ら確信のない感情的な愛國心ほど危險なものはありますまい。お互同士の愛の關係に於ても亦これと同樣です。

□「義の果」といふは、モフアット譯には harvest 收獲とあり、これにも妙味があります。要するにイエス山上の說教に於けるが如く、「その果によりて彼らを知るべし」(マタイ傳七ノ一六)であつて、こゝはパウロがピリピ教會が花も果もあるものになれかしと祈つて

居ることを示したものである。然も彼はイエス・キリストを離れ、單獨に孤立して居ては、到底善き果の結びやうなきことを述べたのであります。即ち「イエス・キリストによる義の果」とはそのことです。「枝もし樹に居らずば、自ら果を結ぶこと能はぬごとく、汝らも我に居らずば亦然り、我は葡萄の樹、なんぢらは枝なり。人もし我にをり、我また彼にをらば、多くの果を結ぶべし。」（ヨハネ傳十五ノ一八）とはイエスの御約束です。

□「神の榮光と譽とを顯さん事を」これはパウロの祈りの結文です。縦令幸にしてその果を見ることが出來てもです。それは決してピリピ教會の榮光ではない。それはまたパウロ自らの名譽でもないといふのです。「これ凡ての物は神より出で神によりて成り、神に歸すればなり、榮光とこしへに神にあれ」（ロマ書十一ノ三六）とある通りであるからです。世人は其結果を見て遂には神を讃美するに至るでせう。人は神の榮光を反射するに過ぎぬのです。榮光はこの罪に汚れたる人から發するものではありません。

Lord, for to-morrow and its need I do not pray,
Keep me, my God, from stain of sin just for to-day.
Let me both diligently work and duly pray;
Let me be kind in word and deed just for to-day;
Let me be slow to do my will, prompt to obey;
Help me to sacrifice myself just for to-day.

地につける畫家の悲劇

齋藤勇

一四八七年頃フィレンツェに生れて一五三一年に死んだアンドレア・デル・サルトーは、文藝復興期の畫家である。彼れは仕立屋の子であつたが、鍛冶屋の丁稚になつたこともある。だん／＼繪畫に興味を有つに到り、非常に苦心してそれを學んだ。

二十一二歳で某會堂の壁畫を依頼され、それが實に申分のない技巧を以て描かれたので、爾來彼れは「無瑕の畫家」と呼ばれるやうになつた。三十歳の頃にはフランス國王フランシス第一世の招きによつてフォンテヌブローの宮殿に伺候し、そこで國王自身の親切な奬勵を受けながら、大いに靈感に充ちて彼れの一生の傑作を出した。

併しこの「無瑕な畫家」は、彼れと時代を同じうせるミケランジェロやラファエロと比較すれば、どんな位置に立つ人であらう。アンドレアは技巧の圓熟してゐる點に於て、彼等三大畫家と必敵し得る。むしろ其の上に立つてゐる。けれども彼れの作物には生命がない。よく書いてゐるが生きてゐない。

然らばそれ程の技巧ある者がなぜ生命をつかまへてゐなかつたのであらう。――かく問を發する時に、私は奔放にして深刻な宗教詩人ロバート・ブラウニングの詩「アンドレア・デル・サルトー」を想ひ起さゞるを得ない。この詩は道心なく信仰なき技巧家の作品はどうしても最高の藝術品たることが出來ないといふ斷案を、極めて劇的に例證したものである。

秋のたそがれにアンドレアはその妻と共に、窓に倚つてフィレンツェの町を見下してゐる。妻は美人であるが、彼れを愛してゐない。併しアンドレアは妻戀しさにフランスの宮廷を辭して歸り、國王から美術品購入のために委託された大金をも、妻の歡心を買ふの資料としてしまつた。妻のためには、售らんがための畫を書くことも一再ならずやつた。彼れは藝術家としても一個の市民としても良心をしびらせてしまつたのである。彼れは今や秋の夕暮の空も同樣、自らの心が熱なき色に包まれてゐることに氣附く。彼れは多くの畫家がその構想に於ても、實に見るもみじめな程苦心努力しながらも、彼自身程巧妙に描出することの出來ないのを知つてゐる。けれども彼れは內心彼等を畏れざるを得ない。なぜであるか。彼自身の告白を聞け。

彼等のうちには、彼等の思ひ惱み、鼓動はげしく
物が詰まつた腦髓や心の臟や何やらかやらのうち
には、
脈が低い、手先のきく技術家の、私のこの手を、
動かすよりも、もつと眞實な、神の光が燃てゐる
彼等の作は地びたに落つこつてゐるが、
彼等自身は、實際、私のはいれない天に屢々到り
入りてためらふことなく己れの座につくけれども
歸つて來ても世人にこれを告げ得ないのだ。
私の作はもつと天に近いが、私はこゝに坐つてゐる。

アンドレアの如き曠世の才を以てしても、尙最高藝術を出し得なかつたのは、地にのみつける者の悲劇である。最高理想に對するあこがれと、その實現に熱誠な努力を續ける心とが、信仰によつて光を發することがなければ、藝術も亦眞の生命をたゝへるものとならない。アンドレアには「銀の灰色」がある。落ちついてもゐる。無理でもあらう。けれども心なき女に囚はれた彼れは、己れの弱點を詳知しながらも、一大飛躍を以て自己を天にまで引き上げることが出來なかつた。

もし彼の妻が、心からの愛を以て彼れを力づけ、励ましたならば、彼れはどういふ畫家となつたであらう。もし彼の女がブレイクの妻の如く忠實であり、ブラウニング夫人の如く理解に富んでゐたならば、アンドレアと雖も只「無瑕の畫家」位で終らなかつたかも知れない。

われは苦しみ且ともし
神よいそぎて我にきたり給へ
汝はわが助け
われを救ふものなり
ヱホバよ
ねがはくはためらひ給ふなかれ。

（詩七十ノ五）

基督を我等に遺し我等の爲に十字架の死をさへ受けしめ給ひし神は我等に此壞る者は必壞ざる者を着死ね者は必死なざるものを着るに至るとポーロを通して約束し給ふのである。確に我等は此儘で終るものでない。然れば目前の損益に我等の思を占領せしめてはならぬ。我等が第一に注目すべきは神の權衡である。一時の榮ではなく永久の意義をなすものが我等の對照でなくてはならぬ。故に瑣細なる樣で偉大なる仕事がある。立派な大木のやうで中身は虫食ひの事業もある。世の流人より誤解されても神の嘉し給ふ親切があり、世の流行兒でも神の前に三文の價もなき人がある。畑を耕す者が王者より優れてゐる事も多かろうし、貧家の主婦が三軍を叱咜する將軍より神の國では席順に於て上であり得る。無學文盲でも大學者より天國の建設に力あるものもあらう。畢竟するに何にてもあれ凡そ永久性のある仕事は神に喜ばれるのである。どんな詰らぬ樣な仕事も其動機、精神とが神に依るならば必觀爾される。世は縱何、政治家が跋張つても、或は如何程の學者が議論しても善くはならぬ。日常生活が新の精神に於て營るゝ家が多くなつてこそ始めて進歩するのである。我等の人格、我等の愛、我等の仕事悉く永久の生命に協へるものでなければならぬ。（福音新報所載）

聖フランシスと聖クララ（三）

小出正吾

新生

一人の靈魂が自由を獲る前に、神は常に何かの人格を通して彼の靈の奥底を照らし給ひます。

アシジの貴族シファイ家の城内に、小鳥の様に育てられて來た少女クララが、其の小さい胸ではどうしても解決することの出來なかつた問題――自分の靈的憧憬と外的生活の矛盾――暖い雲で被まれた心のもがき――其が今アシジの街張に乞食價として現はれた、前の貴公子フランシスの嬰兒の様な愛の心と、火の様な信仰の焔に觸れて、最後の自由の途へと放たれたのであります。

クララがフランシスの内に見出した貴い光は凡そ二つであります。一つはフランシスが實行し始めた無所有の清貧生活の心です。何ものをも有たざるに似たれども、一切のものを所有とする神の人の自由生活です。物質の所有によつて人間はどんなに不識的束縛を受けてゐるでせう。爾等神と金とに兼ね仕ふること能はずであります。この無所有生活はクララの全修道院生活を一貫した心でありまして、其は明かにフランシスの地上生活の理想でありました。而もフランシス教團が大きくなつて行くに從つて、この理想は破られて行きはぢめました。その時死に至る迄獨り强硬な抵抗を試みて、遂に清貧生活を完ふしたのはクララです。この事は後に例を擧げて記述いたします。もう一つはフランシス自身の言葉と行爲が眞に彼女の牧者であることです。一體他人の

牧杖の儘に自分の生活を歩む等と云ふ事は不自然な事であります。併し此處に神秘な靈威に打たるゝ事によつて、一つの人格の内に崇高を見出し、自分の無智と汚れと弱きを實感して、或種の信頼をその人格の内に捧げる事は、彼の心の自然さと言ふ許りでなく、其は祝福されたる叡智の行業であります。神はかくしてクリストを牧者として地上に降し給ひました。弱きクララはフランシスの人格を通して、聖者の内に働給ふ神の子を拜したのでありました。

この二つはクララの靈魂を自由の大空へ飛翔せしめました。其日からクララにとつては、聖フランシスは「神の下にて彼女の見得る全てのものの師」であつたのであります。そこで托鉢生活は歡喜の世界となり、修道院は彼女の生涯の爲に此世にあつて最も清淨な處となつたのであります。かく彼女はフランシスを敎導者とした世界に於て、眞の神を理解し主なるクリストの福音に觸れたのでありますから、クララの生活の基調を傾聽する者は其處に三つの音律を感ずるのであります。一つはフランシスに對する彼女の忠信。も一つは淸貧に對する彼女の忠信。更に一つは貧困にして地上に來り給ひし主クリストに對する忠信であります。そして此心よりの三つの忠信なる奉仕の生活を以て、クララは彼女の生涯を聖ダミアノ寺院に彫つけて赴つたのであります。

さて彼女の眼前に展けた新生を慕ふの余り、白く塗られた墓（彼女にかく感ぜられたでありませう）樣なこれ迄の生活樣式を根柢から覆へらせる時が來ました。この彼女の希望が若し平和の裡に父母の許すところとなるならば、何にも心配は要りませんが、其が不可能となれば勢ひ思切つた手段に訴へるより外に途はありません。フランシスは棕櫚の日曜日の夜を以て、クララが基督の花嫁となるべき日に定めたのであります。

この世に別れる日

其は一二一二年の三月十八日でありました。彼女がこの世の快樂をば、主の受難の喪に變へるべく定

められた祭りの日が來たのであります。これが此の生活での最後のミサかと思へば、クララは自分の衣裳のうちでも一番美しい晴着を着けて、母や妹達とともに聖ルフィノの寺院へ行くのでありました。この日アシジの娘や女達のなかで「光の髪クララ」ほど輝けるものはなかつたと申されます。

棕櫚の日曜日と謂へば、主がエルサレムへの入城を祝ふ日であります。棕櫚になぞらへた橄欖の枝は司祭の手によつて淨められ、會衆の一人一人に頒たれます。

ホザンナ

ホザンナ

と美しいアンティフォンの合唱に搖れる堂母の内を橄欖を持つた會衆は、靜かに廻り始めるのでありました。所が此處に唯一人僧正ギドーの前に行つて、橄欖を頒けて貰はうともせずに靜止と自分の席に坐つたまゝの少女がありました。シフィ家の席のクララです。……過ぎ來し幾年の間、母達と共に並んでミサを聽いて來た斯樣な禮拜も、もう今日でお別れかと思ふと、樣々の感動が小さい胸を一杯にするのでありました。母の懷しさ。妹達の愛らしさ。お互に賴り合つて來た今迄の日々に、彼女の幼き全ての日と青春のふるさとに、永遠に（其も彼女等には秘めた儘）別れて行く夕ぐれであります。

靜かに僧正ギドーの手が彼女の肩に置れました。クララは僧正が態々彼女の席まで來て、橄欖の枝を渡してくれた心の内を獨り胸に覺えて、涙のうちに感謝を捧げたことでありました。

其夜、家の人々の寢靜まつた頃、クララは秘かに自分の室を拔け出ました。門の戶の橫木をはづすと靜かに外の世界が彼女を迎へます。十八年のふるさとを永遠に後にして、クララは待つて居たボナ・グルフッチに從つてポルチウンクラの方へと歩いて行きました。

フランシス團員達は、手に手に蠟燭を持つてこの基督の花嫁を迎へに出ました。そして森の中からは

花嫁を迎うる喜悦の歌聲が、靜かに流れて來るのでありました。

修道院へ

かくて小さな禮拜堂で彼女の輝く衣は脱がれて、直に兄弟等と同樣の一枚の粗い毛の衣に代へられました。そして彼女の寶石を飾つた帶は、今は荒い結び節のある繩帶となり、アシジの光の髮と歌はれた金髮は、フランシスの動かす鋏の音と共に落ち、美しい高頭巾は棄てられて彼女の頭は厚い黒い覆ひに被まれ、そして豪奢な繡のある靴は、一足の木靴に變つて了つたのでありました。

數日の後に、父達は彼女の隱れ家なる修道院に侵入して、クララを奪ひ返へさうと努めましれが、彼女は寺院の中の祭壇にすがりつき、そして剪られ果てた髮を示してどうしても動きませんでした。やがて十六日目に妹の愛らしいアグネス（又はアニエザ）も姉の後を慕つて修道院へ來り、のちに次の妹ベアトリチエも、又父の死後母オルトラナもクララの許へと走つて參りました。

家に別れたクララは十八歲でありました。クララの樣な温い家庭に育まれた童女でも、家を出なければ神の召命に從ふことの出來なかつたその痛ましい心を思ひますと、誠に同情に堪えないことでありますが、又それと同時に恩愛の家を棄てゝすら、假面と妥協の世界から離れて、眞實と自由の世界へ跳躍する勇氣のあつた彼女の精神的彈力の強さを、讚美せずには居られません。宗敎詩人ブラウニングが謳歌した人生は、斯樣な生き生きした躍進の譜であつたと思ひます。

パスカル、ロビンソンは "ST. CLARE OF ASSISI" の論文の中で曰く、

「クララは彼女の心をフランシスに與へた。そして次にフランシスは其を神の前に獻げた」

この一言は兩聖者の關係を言ひ得て適切であると感じます。かくてクララはフランシス敎團の最初の姉妹となりました。そして恐らくフランシスにとつて

は、彼の最後の姉妹であつたでせう。

これまでは如何にしてクララが聖フランシスに會ひ、そして如何にして彼女はフランシスの教團へ入つたかと云ふ舒述であります。でフランシスカンとしてのクララの生活及び女性に對する聖者フランシスの態度に就いては、稿を別にして述べたいと思ひます。

Make me sincere, patient, strong,

And give me the power to think deeper,

To live better, and love more.

人の感ずるおそれに二種ある。一は愛人の畏懼であつて、他は奴隷の恐怖である。眞に愛し愛さるゝものは互に彼等の心底に秘んで居る歡喜、悲哀、願望に直に共鳴し得る程敏感である。神の現在と聖旨とに對し我等又斯くの如く敏くあらねばならぬ。彼の聖旨にそむく業は寸時も其儘に爲し置かれざる程に、彼の現在の感の曇れるを片時も堪へ得ぬ迄に、己が救を全うせんとするものゝ靈感は鋭敏である事を要する。

ジョエット博士

詩稿

鈴木俊郎

自然は悠久なものだ
しかし、自然はすばらしく速い疾走者だ。
今日のこの麥畑は昨日のとはちがつて居る。
今日の此の梨子畑は明日のとは異るだらう。
人の智慧では解く事の出來ない發芽と云ふ奇蹟から。
生物は一日一刻生長して行きつゝある、
夏草や樹々の蓊鬱から
色づいてやがて散りしく冬枯れの時迄を。
君よ、路傍の一草を取つて見るがいゝ。
此の草の生長する法則を知つたならば、全宇宙を解し得られると言つた詩人の言葉を深く思つて見るがいゝ。

ある者の大能力は
不動の確さを以つてすべてを支配するのだ。
夜、天を仰ぎ見る者は幸福だ。
數知れぬ星辰は君に微笑を投げて居るから。
名を知つて居る少しばかりの星を、
霽れた夜空に見つける喜びよ。
頸すぢが痛くなる迄空を見上げて居る。
名を知らぬ何萬か何億かの星の群を見入る時に、
今にもあの隕石が落ちて來さうな氣さへする。
けれど、今日の穹窿は昨日のとはちがふ。
今日の大空は明日のとはちがふだらう。
あの無數の星辰が
あんなに美はしく、秩序正しく、
廣漠涯なき天空を周行して居るのだ。
君よ、行つて科學者にきいて見るがいゝ
最も極微な、原子の中の電子の運動は、
あの無邊なる星辰の運行と全く同様だと云ふことを。

それは驚きよりも寧ろ怖しさを感ずる位だ。
始めなく終りない恒久の力は、
今現在の萬有を
不抜な確さを以て支配して居るのだ。
自然は悠久だ。
自然はすばらしく速い疾走者だ。
それを支ふる大能の力、それを思はずには
居られない氣がする。

なんぢら眼をあげて高きを見よ
たれか、此等のものを創造せしやを思へ
主は數をしらべて其萬象をひきいだし
おのおの名を呼びたまふ
主のいきほひ大なり
その力のつよきが故に一も缺る事なし。
エホバは永久の神、
地のはての創造者にして
倦み給ふ事なく、また疲れ給ふ事なく、
その聰明こと測りがたし。　（イザア書四十章）

私共は年中毎日、朝から晩迄一切萬事に唯神の御命令に服從する事によりてのみ能く神との圓滿なる調和を保ち、靈の惠に生長し、有用なる奉仕をなし、勝利ある戰爭を續ける事が出來る。一言にいへば、私共は服從によりてのみ能く潔き生活を繼續する事を得るのである。然らば我等は如何にして神の御旨を辨へることが出來るか。神の御命令には服從したいけれ共、どうも實際の問題に向ふと、どこに其思召があるのか解り難くて困るとはよく眞面目な基督者からきく言である。神の御旨を私共に顯すものは聖靈である。然し聖靈も亦異つた方法を通して働き給ふのである。即ち聖書、攝理、神の僕、我等の良心等を通して神の旨は聖靈により教へられる。私共は事毎に此等の管を通して導く神の御聲に注意し一旦其御旨を辨へた以上は何が何でも之に服從せねばならぬ。祈りつゝ思ひきつてやれば必實行出來るに相違ない。

（山室軍平氏說教斷片）

夏期修養會の印象と感想

しげ子

一

「何か得て歸ろう」こう深く心中に定めた私の豫期は、それだけに非常に大きなものでありました。殊に、一昨年の仙臺の修養會の印象が、鮮に殘つて居たものですから、僅か一週間の短い生活ではありましたが、亦と得られぬ樣々の尊い、而も力ある、經驗を味ひ、深い暗示も受ける事が出來たのです。然し、此修養會を通して、私に與へられた最上の賜がたつた一つございました。即ち「眞實な生活をしたい」と云ふことです。

七年間も宗教學校に置かれて、宗教教育を受けてきた私には、毎日聞く講師のお話等は、さほど珍らしくもなければ、亦感ずると云ふ事もありませんでした。

序說を聞いて居るうちに「亦か」と云ふ氣持ちが私の全部を支配してしまひますから、少しも心に響かないのです。どうして自分はこう皆樣の樣に從順に感じ得られないのかと、五六日目頃にはさすがの私も物足りなさを痛切に感じたのです。然しこの樣な經驗は、慥に皆樣の中にもあつた事と存じます之は一つには現在の宗教々育の大きな缺陷ではないでせうか？　つまり、食當りをして居るので、もしそのまゝで自己を眞面目に反省する事がない場合には身を亡ぼす程のおそろしい結果を生ぜはすまひかとあやぶまれます。勿論物事は多方面から解釋し樣と思へば出來ることですから、一面で惡と論ずる事も、他面では善であるかも知れません。然し少くともよくない一面を有つ事はよりよく考究して改良せねばならないかと思はれます。單に講演に對してのみではなく、毎日の樂しい生活の其裏面に一種の强

い物足りなさを覺えたのです。自己の不足と他の不足とが結合する樣な、亦は切求して居る共の物が得られぬ樣な、而して自らが他に與へ樣とする眞實が他にとつては何の價値も持たぬものとなつてしまふ、こうした復雜な物足りなさが絕えず潛んで居りました。あまりに自己を中心とした爲かとも考へて見ましたが、どうしても私には其處に、私にそう感じさせた何物かゞあつたにちがひないとしか思はれません。

婦人の働きの世界的、且つ宗敎的機關である女子靑年會の起源と、現在の狀態と、而して將來とを眞劍に考へさせられました。私共お互は如何なる境遇如何なる職に在つても、神の爲めに働く者でございます。而して福音の傳道者としては、もつと〳〵敎育されねばなりません。殊に日本婦人として、同胞のために働くならば、先づ第一に日本人をよく理解する必要があります。たつた一人の基督を中心にして、幾十の宗派が起つた樣に、見る人聞く人の個性の相異は、このやうに他人の說く所に滿足をすることが出來なくて、新に自己の信奉する儘を傳へ樣とするのではないでせうか？ まして氣候、土地、習慣等の異つた、各人種には譬へヒューマンハートは一つであるにしても、そこに多種多樣の差異を有して居ることは言ふまでもありません。相互が全く理解しきれた時には、そこに愛が生じます。而して、私共の働きはその時に目的を果されるのではないかと存ぜられます。私共はどうかしてせめて男子と同等にまで知力を得る機關がほしうございます。亦修養會の標準を、女學校程度以上にまで引き上げたいと思ひます。さもなくば、最も力ある女學校程度以上の學生や他の人々は次第にこの會から遠ざかつて修養會へ行くよりも講習會へ行く方がよいと云ふ狀態になりはすまひかと思ひます。而して程度をあげることはより若い姉妹等にも自己をのばすに最もよい道となるでありませう。

同時に私共各自が眞實でありたいと思ひます。せ

めて一週間でも眞實に生活することを修養したいと思ひます。從來の敎へられた信仰、亦形式に捕はれた信仰から全く離れて、自ら眞實なものを握りたい。何の才能を有たなくとも、天地萬物に通ずる眞の一片を宿す人間になり得ぬ事はありません。私は今年の修養會を非常に樂しみにして待つて居ります。皆樣！　一人でも多く出席し樣ではありませんか。そして互に改善の道と創作の力を得て全國に散歸し會の精神を徹底さすために若き姉妹を呼び起そうではありませんか。

二

荻村　操

闇に迷へるあめつちの、胸に光の矢を投げて、
眞のものを生かすなる、朝日はげにも神なりや。

そよ吹く風にみむねきゝつゝ起き出づ。此處は青山女學院の寄宿舍、みどり濃き芝生の上に跪きて、靜かに早天に祈りしは一日中の大なる力なりき。今日も一日その總を神に任せまつらんとの切なる祈を捧げ、いそ／＼と食堂に向ふ。遙々上京せられし姉妹方、話交しつゝ食事をすませ、暫時休みし後會場なる鳥居坂英和女學校へ向ふ。禮拜は朝八時よりなり。詩篇の暗誦をなし、讃美歌を歌ひ、只管に神を慕ひまつる。老も若きも諸共に同じ心の交ひは、如何に樂しく美しかりし事よ。平安の神我等と共に在す心地切にして感謝に堪へず。

今日も亦早く聖書を通し、先生の御言葉を通して父なる神と救主基督の聖旨を伺はんと、心もいそいそと定められたる室に至る。先生の御熱心なる御祈にて、私共の思は唯々淸き御國に走せ行くのみ。神の事、人の事、罪の事につき聖書を通し、社會の實例を通しての御講話あり。實に過去の年月、生れながらにして、死にたる生活をなしたりし自分を深く恥ぢしと同時に、神樣を一層よく知る事を得、云ひ知れぬ感謝に充されて日中の暑さも覺えず、青山に歸りぬ。夜ふたゝび禮拜堂に集ふ。定刻の七時といふに、堂は四百人余の東西南地より集り來られし姉妹方にて滿され、而も堂に一足入りたる瞬間の心地

此集りは確に神御自身の御支配なし給ふ所と信ぜざるを得ず。講壇に立たるゝ先生を通し、神の國を知ん基督の十字架の救を求めんと、聽衆の心は一つ祈に結ばれしやうなりき。

青山の寄宿舍にもどりしは九時を半過る頃、暫時の間、全く種々の思ひ煩ひを捨て、此日一日の祝福を感謝し、教訓を思ひ返し等しつゝ寢に就きし時の歡喜は、一年を過る今日も尚、胸に浮ぶるに難からず。

斯く感謝に充たる一週日を送りしは、暑さ嚴しき時なりしも、いさゝかの疲勞をも覺えず、心より神を信ずることを得て、感謝にたへず。此短き七日の間にも遠足會親睦會等ありて、皆樣との親しみも加はり、お別れの日の餘りに早く來りしを、心惜しく思ひし程なりき。

おゝ、今や色香さほひし花は散りて、青葉若葉さしそふ夏は來り、思ひ出多き修養會は又も目前に迫りぬ。あゝ我が敬愛する姉妹達よ老も若きも、神の御許に集ひ來て、その清き尊き聖聲をきかずや。あらがねのとくる暑さをも忘らるゝものを。

三　一讀者

日の光も草や木の色も、すべてが強く人の心に反射する夏は活動を示して居ります。此夏にふさはしい集は女子青年會の夏期修養會でございませう。

暑もいとはず靈の糧を得やうと全國から、はては朝鮮からさへ集つて參ります娘たちは、定められた一週間の日課を希望と熱誠とそして微笑に面を輝やかしてうけます、朝日と共に起き出でゝ美しい空を仰ぎ、まづ主なる神に禮拜いたします時、私共の心は清められます。聖書の組は神樣に對する知識を廣めてくれます。熱心をこめた講演者の御話は、私共を緊張させ向上をうながします。午後からの靜思時間は、私共をかんがへさせます。

やがて日も落る頃、又一所に集りまして、一日の會を司り給ふ神樣を讚美し祈ります時、人々の心は靜に落着きまして、一日の印象をはつきり思ひ浮べ

ます。それらはみんな一生の旅路を彩るあざやかな記憶となつて殘つて參ります。夜の組會では新しく知り合つた人々と感じをのべ合つたり勵し合つたりいたします。間々に織りこまれる親睦會や遠足は、朝夕のあいさつや、三度の食事から親しくなつた方々と樂しく語り合ふ時に用ひられます。

七日間もすぐ終りが來ますと、思ひ思ひに結んだ美しい實を戴いて「見よや十字の旗高し」の歌のごとく主の爲何かなさんと、勇ましく、堅き決心をもて、各自異つた場所に歸つて行きます。新しい友達に來年を約して、

修養會、私共の靈を育んで下さる修養會は、暑をさけて山に海に行く前に、先づ立寄るべき所ではないでせうか。その後に行く山や海の景色は、私共に全く異つた自然をみせてくれます故。

四　M・K

友人の誰彼が行くから私もといふやうな社交氣分で修養會に出席することは、時と金との大なる消耗であるのみならず、それは眞摯と緊張との支配すべき會の氣分に、一種の浮ついた調子を與へる恐れがあります。之は昨年の會で痛切に感じたことでした。

信仰生活の基調を整へ度い、或はゆるがぬ根柢を得度い、靈性の革醒を、靈魂の糧をと眞面目な願望を抱いて行く者に充分な滿足を與へて戴き度い。

より深い沈默、より嚴粛な靜思、之は女子青年會の修養會に望み得べからざることではないやうな氣が致します。一年後の今日昨年の修養會を思ひ起して私の心に一番深く殘つて居る印象は、早朝の祈禱會です。此の事は、人の心に深く永く殘るものは如何なる底のものであるかを私に敎へてくれて居ります。

昨年の修養會に出席されし方々は感想を御寄せ下さい。

エレン・ワトソン

森田松榮

神と人とに對する熱烈な愛に燃えてゐたエレンに死期は近づいてゐたのであつたが、そんな豫覺は少しもなしに、死ぬ二日前まで、友人に信仰の手紙を書きなどしてゐた。

彼女は晩の禮拜に出て感冒を引いたが、一向氣にかけないので、傍のものは世話をやくのに骨が折れた位であつた。彼女は友人に手紙を書いた翌日も、學校に出て敎へ、歸つてからも快活にいろ〳〵の話をした。翌日も朝食の卓に就いて、一同と快く談話をした後、學校へ行く前、少し散歩をするつもりで仕度をし、靴を穿きかけると、俄に咳き上げて來た。度々の事とてエレンは驚きもしなかつたが、早速醫師も來て、其日はおさまり、翌日などはおきあがつて次の部屋へ行つたほどであつた。

其夕方學校の同僚が見舞に來たとき、エレンは例の同情ぶかい興味から、病氣も忘れて其日の學校のことを何かとたづね、容態もよい樣子で寢に就いた。曉方の三時頃に第二回の喀血が來たが、此度は直ちに馳せ付けた醫師の手當も、人々のあるとある心盡しも甲斐なく見えた。

牧師は最後の近い事を告げた。エレンは、いともやすらかにその宣告を受けて、聖餐式を願つた。彼女は死に對しつゝ、平安に確信を以て、聖餐式祈禱文の應答をなし、式後の「榮光の頌」を唱へつゝ「神の生み給ひし獨子、世の罪を除き給ふ神の羔」まできて、彼女の聲はきこえなくなつた。かうして

信仰の告白と讃美とを、その清い唇にのせたまゝ、彼女の魂はその故郷へ還つたのである。エレンは再び生れ故郷の土を踏まずに、アフリカからすぐ天の家へ還つたが、葬儀には、二人の實弟と、多くの友人及び生徒とが列した。時に廿四歳。

エレン逝けりとの報が、故國へ傳はるや、彼女を哀惜する情は、人々の心に深く、エレンを記念するために、奬學金が募られ、ロンドン大學に於る數學特待生が、これを與へらるゝことに定められた。

エレンの一生は電光のやうに閃き過ぎた。然しその閃光は、天上の光明を反射してゐた。嘗て正直な疑ひをありのまゝに告白してゐた、エレンの魂は、實に一度その故郷を望み見た時から、一向専念に、天への巡禮を始めて、後を顧みることなく進んで行つた。求めて與へられた歡喜に生きてゐたエレンは、その肉體は絶えず病苦と闘ひながらも、その靈魂は神の恩惠の讃美と、信仰の凱歌とを絶えずうたつてゐることが出來たのであつた。

エレンの數學上の天才は人に尊敬を拂はせる。その清く高い人格は、人に欣慕の情を湧かさせる。然し疑念から一轉して信仰専念の生活に入つたこと、信仰によりて病苦に打勝つたのみか、最後まで神に事へ人に盡した生活は、神に惠まれた者の生活の何にもたとへ難い尊さと强さとを感じさせる。

（終り）

○怒をおそくする者は勇士に愈り己の心を治むる者は城を攻め取るものにまさる。

○言を寡くするものは智識あり心の靜なる者は哲人なり。

○おのれの心を制へざる人は石垣なき壞れたる城の如し。

○わが子よ汝の心を我に與へ汝の目に我道をたのしめ。

○なんぢ言を謹まざる人を見しや彼よりは却つて愚なる者に望あり。

○言おほければ罪なき事あたはず。その唇を禁むるものは智慧あり。

ソロモンの箴言

誌友の頁

投書を歡迎致します。匿名で差支へありません。論文、感想、詩歌、何でも結構です。締切十五日

雑感

水野きよ子

○

信仰生活の發足點は何所にあるか。其は明確なる赦罪と救拯との經驗に置かれねばならぬ。此處より發してこそ新生命の發達は健全なる事を得る。靈性の生長遲々として、年を經れども何等見るべきものなく、信仰に、祈禱に、實生活に生命なきを感ずる基督者は、其病源を遠く發足點にたづぬる必要がある。彼等の踏み出しに何か不確な所がありはせざりしか。有耶無耶の中に葬り去つた事はなかりしか。

信仰に入る時聖書の全部に精通する事は必須條件ではない。教理を究むる事、又之を後日の研究にゆづる事が出來る。然し缺くべからざるは基督による罪の赦免と救の確信、即靈的經驗である。

如何となれば宗教は論ずべき思想ではない、經驗すべき事實である。而して基督教は「教ではなくして生活」であるからである。

○

感激の生活、ポーロ、フランシス、ルーテルの如く、代々の聖者の如き感激の生活こそ眞に我等の望ましき生活である。善をなすといひ、人を愛すといふも、そをなさざるべかざるが故にとの道德律に拘束せられてゞはなく、罪の身は赦され救はれ、新しき生命を賦與せられたる感激のあまり、斯くなさ

じるを得ざるが爲になすのである。

基督の愛の爲、救の歡喜の爲、一切の十字架を負ひて主の御足の跡を踏む、其所に人生の價値があり目的が存する。

基督者の世にあるは感激の生活を送らんがため、聖旨の實行者たらんが爲に他ならぬ。斯くてこそ、我等の短き一生も、眞に永久性を有するに至るのであらう。

或朝の感想

河上末子

赤坊を抱いて、撫てるやうな潮風に向つて波打際に立つた私は、何か知らないけど堪へ難い懐しい感がこみ上げて來た。

霞むだ空の下に、帆掛船を遠近に靜かに浮べた今朝の海は、墨繪か偉大な盆景の如く、灰色の海面には靜寂の氣を湛えてゐる。綠濃き山丘を緣先から仰ぎみる岩屋の我家から、此敏馬海岸に來るのに五分とかゝらぬ事は、此片田舍に住む恩惠の一つだと思つて感謝しない日はない。

母の足下に來ては碎け來ては碎けする波に見入つて、不思議そうな顔し乍ら、まだ口のきけぬ和子はウー〱ワー〱と柔い何にも障らないやうな聲を出して何を讚美して居るのであらう。あゝほんとに春の風光は慈母のやうだ。抱く赤坊を忘れて自分が大自然の懐に抱かれたやうな氣持になり、私の靈は頻に天の故郷が慕はしく、私の心は祈念に滿ちた。

トントントロリコトントロリ、坊やのおねまにやまだ來ぬか、來なけりや迎ひに參りませう。海山越えて鬼ケ島、鬼のゐぬ國ねんね島。

あゝ私は赤坊に持てるすべての愛の心を子守歌に表はし度い。此小い魂の發達を神かけて祈願する歌が歌ひ度い。けれども音樂の知識に乏しい私は、赤坊を夢の國に誘ふのには、いつも此歌を歌つて居る。「あゝ和ちやん、ねんね島に遊びに行つて仕舞つ

たネ、をゝ笑つてる、天使達がお前に何を囁いたの？　おめめが醒めたらマヽに話しておくれ、マヽちやんなんか夢にさへきく事のない天使達の話を」と云ひ度くなる。

何といふ信頼した顏だらう。此汚點だらけの、信仰の薄い母親に身も心も委せ切つた安らかな寢顏、無心の赤坊の顏とは思へない。拜み度いやうな神々しさが宿つてゐる。罪に汚れた、此母親を神の聖にまで結びつけなければ止まない力を秘めて居る。

私が子供の時から一番好きな話は小公子であつた此世で最も美しい、最も淸い、最も賢い婦人は僕の母さんだと信じて居た聰明なセドリックは抱きしめ度い程可愛らしい。私の娘時代からの理想の母に、理想の子供である。

本能的に私を慕ふ赤坊の和子が、生長につれて理智の光に醒まされる靑年期が來ても、否終生私は自分の全部を信頼されるに價する幸福を得度い。子供を善くするものは親に對する此信用だと思ふ。

×　×　×　×

「私は善人になり度い」これが母親になつてから強く私の心の底に起つて、而して私の日々の生活を支配して居る慾望である。否此慾望が此頃の私の全部である。かつては朝夕の禮拜に聖書を繙けば可なりの修養をして居るやうに考へて居た私は、近頃深夜床から飛び起きて聖書を讀み度くなるやうな時が多くなつた。祈のない時々刻々が淋しいやうに感じる。

婦人として、母として、私は政治問題、社會問題、婦人問題、又育兒問題等に明るい知識を得て、各自に定見を持ち度い、私は今學び度い、勉強したい心に燃えてゐる。けれども何ものよりも第一に、私は天の御神樣との靈交を渇望する。

×　×　×　×

足下に砂が澤山かゝつたのに驚いて振りむけば、どこかの、兄弟らしい坊ちやん二人の喧嘩である。お母さんらしい人が驅寄つて來て、拳骨を振り上げ

た兄さんの手を抱き止めながら甲高い聲で叫ばれた「何でお前はそんなに弟をいぢめるのだい、夕方父さんが歸つて御出たら皆いゝつけて御小言をきかせて上るからいゝ」

何といふ母の責任を無視した、母としての權威のない言葉であらう、私は思はず戰慄した。そして此母親に起る前途の悲劇を想像せずには居れない。かうした言葉は娘時代からよく耳にしては悲しむだものであつたが、只一度或家庭を訪問した時、七八歳のお孃さんが何かいけない事をなさつたのを見て御母さんが、「君子やおよしなさい、母さんが一度いけないと云つた事はいつでもしてはいけない事なんですよ」と仰有つた優しい御聲、もう其時から七八年經つたけれども、今尙思ひ出す毎に、其お母さんらしい婦人に頭が下る。「トントントントロリコトントロリ……」私の和子は私の手の上でよく眠る。私は善き母になる爲、善き人間となり度い、弱い愚な私は其爲不斷の祈をしなければならぬ。

夏期修養會委員會報告

五月十四日及五月十九日(順序委員會)の二回開催各委員の報告あり。決定事項左の如し。

一、聖書の組講師及研究題目。

イ、少女の組。城戶順子氏、古田とみ子氏、

ロ、求道者の組。中路ちか子氏、外村義郎氏。

ハ、舊約聖書。西野貞子氏、平田平三氏。

ニ、キリスト傳。川尻修正氏。

ホ、ロマ書に於るパウロの救拯思想。高倉德太郎氏

二、左の方々講演を承諾せらる(?)標は交涉中。

田川大吉郎氏、山室軍平氏、原戊吉氏(?)
永島愼子氏、アキスリング氏、川戶環氏、
ミスマクドナルド、守屋東氏、田中孝子氏、
平田平三氏、野邊地三右衛門氏、日比忠子氏、

三、日曜日禮拜說教は高倉先生に御願致し御承諾を得。演題「蛇の如く鳩の如く」

四、食事はフエリス及共立女學校の舍監及門倉藤子氏に依賴し、寄宿舍に關する他の事は日比、横澤渡邊の三氏に御願すること。

思ひ出

一讀者

柔い春の日がビロードの樣な芝生の土堤の上に、ソットのつた樣にさしてゐる或午後でした。私は堪へ難い心の動を輕くおさへて、懷しい〳〵幼時の思出の糸をたどりながら、横濱の野毛の山をさまよつてゐました。

横濱は私の生れ故鄕なのです。幼い心にきざみ込まれた嬉しかつた事、面白かつたことの記憶が絶え間もなく私の頭の中に突入して來ました。十年振りの此町、もとより多くの變化はあつた筈ですけれど不動から下りて行く坂や、狹い裏通の軒並、古い井戸等、かうした昔の名殘が、矢の樣に鋭く私の記憶を呼び醒しました。身動もならぬ程重い着物を着せられて、五つの弟と一緒にお參りさせられたあの七歲のお祝の日に、此の道をたどつたのだと思ふと、幾千萬の人の踏み古した土の上に、自分の小さな草履の跡がありはせぬか等思つて見たりしました。

魔境の樣に春の氣が私の身を取りまいて身も心も溶かして終ふ樣に感じました。

夢の中にある樣な私の感覺に、市民の生活の音が遠くかすかに音樂の樣に觸れてゐます。

神樣の御姿その者の樣な此の惠まれた自然の中に、一人靜かに立つて、夢中で過したあの幼年時代から今まで、かうして幸福に育まれて來た自己の爲に、筆では言ひつくされぬ感謝の祈を默想の中に捧げました。

私の心は愛に充されました。私は横濱が好きです人間の支配の外にあるあの大自然の森林、はてしもない青海原の上、かう云ふものに比べたならば、横濱なんぞ本當に小刀細工の樣な所でせう。然し私は此横濱の町の中に、何物か共鳴するものを見出してゐます。そしてそれは本當に〳〵私の心を培つてくれます。生きたい心持を與へてくれます。すべて過

去の事は皆美しいものになります。佐波先生が六月の誌上で仰せになりました樣に、私もこの過去の記憶をたどつて、心溢るゝ感謝を味つた一人でございます。神樣はかうして私共の若い心を育んで下さいます。こんな美しい世の中に生を許されてゐるそれだけが、無上の幸ではありませんか、神樣の爲に何かしなければならぬと云ふ心が、急に思出の糸に結びついて、ふと我にかへつた私は、いそ〱と海原の樣な屋根の町を見下しながら、天神坂を下りて居ました。

友に

水野淸子

今朝は朝から何とはなしに祈り度い氣持に充されて過しました。一番辛く感じました事は、人に接して此沈默を破らなければならず、感激の涙を抑へなければならない事でした。けれど、とにかく、私の心底の聖い祈の流れは何物にも亂されず、靜かな一日を送る事が出來ました。「汝らしづまりて我の神たるを知れ」群衆の中に失つたものを、今日孤獨によつて恢復する事が出來ました。

世の中にふみ込んだり、人の中に雜つたりして、私の心は、終にいろ〱の計畫や樣々の空中樓閣を立てるやうになりました。けれど靜かに靜かに神の現在の前に跪いて祈つて居ります時、自己の築いた一切は當然打碎かれねばならぬ性質のものであつた事を痛切に感じます。そして私の中には唯此二句のみが殘されるのです。"All for God" 一切は神の爲 "All through God" 一切は神に依り、――服從と信仰の二事。

神の御旨で、地上に生を受けた私、之を御旨の儘に用ふる事が當然なのです。人生の目的、其價値、此所に初めて、はつきりしたやうな氣がいたします。

□讃美禮拜。五月十六日午後。東洋英和の先生ミスアレンの有益なる御話あり、小池、毛利兩孃の讃美歌獨唱、大山孃のピアノ獨奏、女子學院有志者の合唱等あり盛會なりき。出席者七十餘名。

□支那、朝鮮、臺灣留學生新睦會。折ふし催しますから御知人の方がありましたら姓名住所をお知せ下さい。

□基督者教師會。主として宗教學校以外の學校に居らるゝ先生方と年に五六回の會合をなし、一致協力して互の特權と責任とを全うせしめ度希望です。すでに有志者が數人あります。御贊成の方々は御加入下さい。宗教學校の方々も御希望の方々は御入會下さい。

商工部報告

□五月四日委員會開催。左事協議

一、商工夜學部設置の件。從來は鐵道クラブ員のみの爲に設けありしが當部敎育擴張の目的にて一般有職婦人の爲に設置せんとす。

夜學部月謝は三科目五十錢なりしを一圓とす

一、夜間講習會開催の件。十回を一期として簡易西洋料理及ミシン裁縫講習を開く事とす、講習費、前者は壹圓五拾錢後者は壹圓とす

一、夏期休養所の件。昨夏試驗的に開きし鎌倉休養所の成績良好なりしにより再度開催の事とす。

費用は一日食費六十錢會費十錢とす。

備品に補足を要するも之も幹部に仰がずして當部にて其方法を講ずる事とす。

開期は七月一日より八月三十日迄

□五月八日鐵道クラブ例會日なりしが幹部總會と同日の故により講演會の名目の下に總會に出席し、生江氏及齋藤氏の御話を伺ふ。來會者三十五名。尙閉會後、夜學部及夏期休養所。夏期講習等に關して報告協議ありたり。

□五月十四日料理講習。午後五時より開始す。實習申込者十五名、內鐵道員十一、敎師二其他二。

□五月二十日ミシン講習。午後五時より開始す。申込者十二名、內會社二、他は鐵道員なり。

□五月二十二日實務員の會合。午後六時半より開き婦人實務員としての心得につき有志者の御話ある筈なり。

横濱女子青年會

□幹事會。從來毎金曜日午後一時半より開きし幹事會を五月より毎週木曜日午前十一時半に變更す。此集會を一部、二部に分ち、一部は禮拜殊に祈禱の爲、二部を協議報告に用ひ居れり。此小集會は職員に靈的向上をまし、延いては相互の働に一層の了解を與へ互に他の爲祈る時として用ひつゝあり。

□幹事の移動。ミスペーカーは御兩親の健康勝れざる爲六月七日か十六日か何れかの船にて歸米の事に決す。同姉は本會創立當時より盡力されし當會にとりて深き關係ある方故、同姉を失ふ事は一同に大なる心細さを感ぜしむ。五月三日には本會委員メンデルソン夫人宅にて送別の催あり、京濱の女子青年會關係者及び同姉友人を多く招待せられたり。ミスペーカーの後任としてミスペリーを得し事は一同に大なる希望を與へ共に樂しく働らき居れり。

□外人客舍。海港にある本會は外人客舍の必要逼迫せる事を切に認め居りし所、ミセスモリソン一ケ年間此爲に働かれん事を提出せられしかば、早速米國本部に資金五千圓を請求せり。過日承諾の返電あり、感謝に充ち一同舊倍の熱心を以て其爲に家を探求しつゝあり

宗教部

□聖書の組。晝の組四、夜の組二各科の姉妹方皆何れかの組に入らるゝやうなし居れり。青年會の根本を深くする聖書の組、祈を日毎の糧と求むる精神を姉妹方の中に燃し度く祈りつゝあり。各聖書の組の外毎土曜日を除き十一時より三十分を禮拜の時として守り、此時會館に學ばるゝ姉妹方と共に暫時なりとも靜かに王の王なる主の前に伏して祈を共にす。種々なる働の爲感謝祈禱を捧ぐるも此時にして最も喜ばしきものゝ一つなり。司會は働人と學ばるゝ姉妹と交代になし今ヨハネ傳を讀みつゝあり、之には時々他の先生方に御話を御願いたす事とし去る二日には草津に於て獻身的の働を癩患者の為になされつゝあるミスコンウオールリーの御働につきて同氏よ

り伺ひたり。目もあたられぬ肉體の病者は健康者の仰ぎ求むる聖き強き生命を内に有して日々感謝に充ち、健康者の働の爲祈を捧げ居らるゝ事を伺ひ一同大に勵まされたり。諸姉妹よ此愛すべき草津の友の爲御加護あらん事を。

□一週三度夜學の組ありて、會社商店より歸途立寄らるゝ姉妹を迎へ、讃美歌の練習等をなして個人的交りを求め居れり。一日の勞れを忘れてピアノのまはりに笑みつゝ集ひ心ゆくばかり讃美を捧げて居らるゝ姉妹方を見る時いつも云ひしれぬ感謝と讃美の涙を禁ずる事を得ず。眞に主の愛に充され之等の姉妹方を一人にても多く主の前に伴ひ、共に祈る日まで一人一人の魂を愛して進み度く願はぬ日とてはなし。（横澤氏報）

教育部報告

□四月十二日午後四時より新學期始業式開催。七十餘名出席、以來午前午後英語の組七組、夜學五組和洋料理タイプライター裁縫國語の組等いづれも豊なる導の下に新しき方々を迎へ樂しく習つたり教へたりして居ります。

□四月二十四日午後七時より教育部新入學生歡迎をかね親睦會開催出席者八十餘名、一同樂しく過しました。

□四月よりフエリス出身齋藤すま子氏、お茶の水專攻科出身河野靜子氏、英學塾出身長井きみえ姉、米國に學ばれし阿部千代子氏等御助け下され一同感謝して居ます。

□西洋料理は二組に分け一組は毎月曜午後二時よりミセスネーペルに、他は毎金曜午後二時よりミセススパーアーに御願ひ致し二組で三十名、河野氏は此二組に出席してお助け下さる外毎水曜午後二時より日本料理の組を持つて下さいます。

□ピアノ科はミスウエペルに願ひ來る火曜日より開始をします。

□タイプライター科は忠隈氏歸米につき阿部氏に御教授御願致しました。毎日朝七時より夕の八時迄十五名の方々が練習に參られます此度セルフレザー會社よりタイプライター二臺御寄附下さいました

□長く裁縫科を擔當せられ親切な

御歡へ下されし田中武子氏は辭職せられ、後任として當市々役所慈教科緒方氏夫人を與へられ一同喜んで居ります。（上野氏報）

♪移民部報告

四月下旬より五月上旬迄講習を受けし婦人四十九名。降り續きし雨の日も七八名の講習生がありました。自分の名や友人の姓名住所等が自分の手で認め得る樣になつたのを喜ぶ人もあれば、朝から聖書を繙いて讀む人、讃美歌を喜んで歌ふ人、かういふ人々の喜ばしい聲を賑やかに聞いて喜んで居ります。かうして集つて來る婦人の他に萬事に無頓着な婦人を宿屋から得て來やうと迎に出かけます。學びたくない人を迎へて教へ樣と致す困難はまた時に失望に導き入れやうとしますが、私共は又爲すべき事をなす喜びに包まれて結局感謝いたして居ります。（日比氏報）

京都同志社女學校青年會より

若葉青葉と世のすべてにつけて心躍る今日此頃皆様方には如何に御元氣に活動遊してゐらつしやる事でせう。神の御翼と美しい自然に育くまれて居る當會も新しい希望に充されて微力乍ら益々活動致し度望んで居ります。新に改選に致しました役員を左に御通知致します

會長 宮川増世　副會長 江口文代
會計 武藤ますゑ　福田清子
庶務 太田信子　書記 古屋靜子

東京女子大學青年會新役員

會長 南波しげ　副會長 佐藤靜子
書記 内田ひで　會計 岡操　福井榮
共勵部長 三上薫　社交部長 飯沼いく
販賣部長 小川まり　仕事部長 諏訪いち

雜誌購讀申込者

神田千代子　土井早枝　濱崎しげ
長谷川愛子　姫野さつ　伊吹惠美
川俣花枝　高松敬子　高梨糸子
竹中光子　鷲山咲子　安齋きみ
前田とめ　井上千代　前川とし
山内貞子　佐倉幸子　米花いく
横濱青年會二十三名
女子英學塾青年會七名

河井先生に御便りなさりたき方は左記に御送り下さればまとめて御旅行先に廻送致します。

東京牛込區田町三ノ一二
女子青年會内　淺井治子氣付
河井道子宛

葉書便り

○柳子姉に、御病氣はもうさつぱりなさいましたか、あの活動家のあなたが今のやうに引込んでお終ひにならなければならぬ事は私共にとつてどれ程殘念であるか知れません。けれど神樣の側には何か深い聖旨のある事でございませう。先頃伺ひました或方のお話の中にミルトンが失明した時に作つた詩の一節が引用せられました。彼は其詩の中に神に仕へる道に種々ある、走り廻る事も一つの道であるが立つて待つ事も亦奉仕である、と言つたそうです。立つて待つそれは神の御命令を受ける最善の態度であると信じます。より大なる仕事の爲御自愛御自重あらん事を。H

○A樣、先日は御葉書誠にありがたく拜見いたしました。眞に唯歸らぬ今日一日聖旨のある所を伺ひ歩み行けばよろしいので御座いますね。己の小い考で事を計ろうとする愚を時々忘れます。自己を主の中に殺し主によつて自由に生き度いと思ひます。自己放棄は我等の生活の律法であると伺ひました。いつかは其の幸福の中に入り度きものと斷つて居ります。T・U

○H子樣、葉書でもよいから最近の感想を知らせよとの仰せありがたく伺ひました。最近或境遇が私の有つてゐた一の幻影を破つて、其迷から私を醒ましてくれた事を感謝して居ります。別に大した事でもありませんが私にとつては隨分大な教訓でございました。頭のいゝといふ事は今迄可成强く私を惹きつけて居た力でした。此一つの條件の爲に他は殆ど省みる事もせず、よい頭の所有者には尊敬に近い感を抱いたものです、けれど前置に申上た或事情が今は私に斯う叫ばしてくれて居ます。「人は頭ではない、心だ。單純な謙遜な心だ」と。何故私共は間口に眩惑されて奥行を考へないのでせう？本當に恥かしい事です。そ人は人の心を要して居る事を憶へませう。そして神樣は聰明な頭腦に御示しにならぬ事を單純な心に現して下さいます事も。貧しき心を！謙遜を！單純を！之が私の最近の感想です。（きよ子）

○A樣、五月號は日々に餓えて居る私の心靈に尊い生命の糧を與へてくれました。長谷川先生のも高倉先生のも繰返し拜見いたしました。先生は説教の乏しい今の時にいつも心の底まで響く説教を與へて下さいます事を銘しく存じます。殊に堪へないのは聖書の講解の出ました事、多くの方々も限りなき感謝を捧げて居らるゝ事と思ひます。誌友の頁にも勵まされました。一息に讀み通した後、すべてが「立ちて輝けよ」と語る樣に思はれました。（ueno）

最近の雜誌より

○人生は短い。それにつけても一日も早く、人生の朝に於て、換言すれば靑年時代に神を信じ神の恩寵に充されん事を求むべきである靑年期が宗教思想涵養の好機たるは現今の宗教心理學の定説ではないか（開拓者）

○我等の生命はさゝやかであるが此生命を導く光、宿る影は大なるものである。深く分け入る所苦闘あり。されど苦闘の途に漏れ來る光を見出して歡喜あり。（文明評論）

○信仰も祈禱もつまり生活である。生活に關係しない信仰や祈禱は空虚である。實際生活に表現されない宗教は決してあり得ないのである。アミールが「宗教は方式でない生命である、其根底に於ては神秘的で、其果實に於ては實践的である」といつたのはそれである（同）

⊙信仰とは提供された赦免を握る手である。（開拓者）

編輯室より

快く初夏の野を風わたる思はず
我は走らんとせり　（兼圓）
心いま若しと我ははげましぬ新
樹の色にみちびかれつゝ（同）

初夏の歌がしきりに思ひ出される頃、遠き者近き人、自然も人も、記憶の中の一切が甦つて常ならぬなつかしきをおぼえしめる時でございます。未知未見の誌友方の上に祝福を祈りつゝ編輯を終りました。五月號の本誌に就て感想や奨勵を御與へ下すつた方々に御禮申上ます。此小い雜誌の爲祈つて下さる方のある事を知つて、どの位勇氣づけれた事でせう。御忙しい中に喜んで筆を執つて下さる方、快く談話をおきかせ下さる方、祝福を祈つて下さる多くの友、編輯を終る毎にいつも感じます事は之等の方々への感謝でございます。

（一九二〇・五・二〇・H・A）

消息

□ミスカット（本部幹事）豫定の如く五月十七日横濱着、小石川幹事住宅に住はるゝ事となりたり。

□河井道子氏　女子青年會幹事大會に出席のため五月八日米國より英國に向はる。

□カフマン幹事　父君を四月二十日哀悼に堪へず。

□忠隈チカ子氏　本部にタイピストとして昨年十月より働かれし同氏は五月十八日の諏訪丸にて米國に赴かれたり。

□ミスベーカー　六月中旬出發御歸米の豫定山本、中西兩氏同行の由。

□永島博子氏　維持會員として本部に入會。

□ミスレーカン　七月中に御來朝の由。

□松宮さき子氏　彌平氏令孃なる同姉は去月森田氏と牛込教會にて華燭の典を擧げらる。

□ミスタピンア、ミスカット御出迎の爲神戸より横濱に御出ありたり。

□ミスカット　五月下旬二週間の豫定にて關西に向はる。

□森田松榮氏　御病氣稍快方に向はれ大森に靜養中。

摘要

△本誌代金は總て前金にて御拂込被下度、前金切れの捺印有之候節は直に御拂込被下度候

△御送金は振替にて拂込まるゝ方便利にて且間違も無之候、但手數料壹錢を御加へ下され度候。

△振替、東京、貳參七貳參番

「女子青年界」定價及廣告料

定價郵稅共

	內地	海外
一部	金十五錢	金拾七錢
一年前金	壹圓五十錢	金壹圓八拾錢

廣告料

一回掲載	
一行	金五拾錢
四分一頁	金五圓
半頁	九圓
全頁	金拾五圓

年極又は回數により割引有

大正九年五月廿八日印刷納本
大正九年六月一日發行

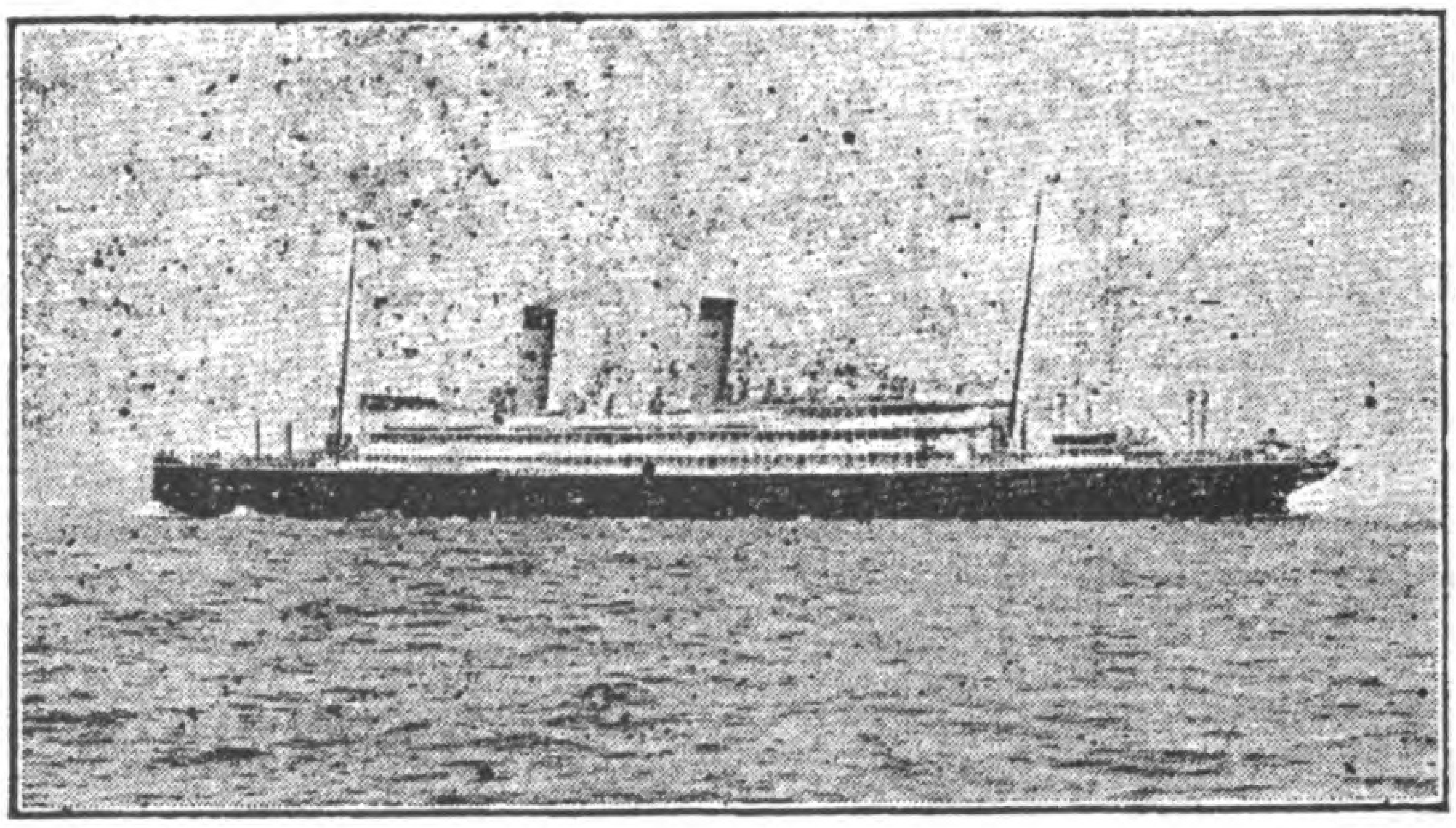
發行所　牛込區市ケ谷田町三ノ十二
日本基督教女子青年會
電話番町四五六三番
振替東京二一七二三番

編輯人兼發行人　牛込區市ケ谷田町三ノ十二
河井道子

印刷人　芝區[illegible]和泉町七番地
前川吉次郎

印刷所　右同所
三成舍

東洋汽船株式會社



本社　東京市麹町區永樂町一丁目一番地（電話丸ノ内 一五三〇、一五三一、一五三二、一五三三番）

營業所　横濱市山下町五番（電話本局 四四〇〇、四四〇一、四四〇二、四四〇三、四四〇四番）

出張所（神戸市京町八三番。香港、キングス、ビルヂング。上海四川路ノース、チャイナ、インシュランス、ビルヂング。マニラ、チヤコビルヂング。桑港、マーケット街六二五、マーチヤンツ、ナショナル、バンク、ビルヂング。紐育、ブロードウェイ、一六五。ホノルル、アレキサンダー、ヤング、ビルヂング。）

北米航路（桑港、布哇ホノルル、横濱、神戸、長崎、上海、マニラ、及香港間）

本航路は太平洋航路中氣候温和、海上平穏なること第一にして船舶の巨大、設備の完全、待遇の懇切とに由り航海最も安全且つ愉快なり

天洋丸	三重螺旋タービン機	排水量	二二、〇〇〇噸
春洋丸	同	同	二二、〇〇〇噸
コレヤ丸	双螺旋機	同	二〇、〇〇〇噸
サイベリヤ丸	同	同	二〇、〇〇〇噸
波斯丸		同	九、〇〇〇噸

南米航路（香港、門司、神戸、横濱、布哇、桑港、維府、墨國、巴奈馬、秘露及智利諸港間）

本航路は東洋南米間唯一の定期航路なり

安洋丸	排水量	一八、七〇〇噸
紀洋丸	同	一七、二〇〇噸
静洋丸	同	一四、〇〇〇噸

各寄港地及各國樞要都市に代理店の設置あれば船室保留並に發着日割等は最寄に就て御問合せを乞ふ

女子青年界第拾七巻第六號（毎月一日一回發行）
大正九年五月廿六日印刷納本 大正九年六月一日發行 明治卅七年五月七日第三種郵便物認可